

UJNR水産増養殖専門部会 第8回日米合同会議共同声明

第8回、UJNR水産増養殖専門部会、日米合同会議は1979年10月17日、18日の両日、アメリカ合衆国、ワシントン州、バーリングハム市、西フロント大学にて開催された。会議主題は淡水魚養殖についての研究交流と部会活動計画に関する討議である。

開催第1日には両国の淡水魚養殖の概要についての5題の報告と最近の研究の進展状況を反映した6題の報告が発表された。これらの発表と意見交換は両国部会にとって有意義であった。

開催第2日には部会活動に関する討議が行われ、議事は佐藤、ショウ両国部会長の協同議長により進行された。過去1年間の部会活動経過と今後の計画を以下のごとく総括した。

研究者の交換に関し、日米双方より計9名の交換が本部会の協力のもとでなされた。これらの結果はいずれも高く評価される。1980年にはアメリカ合衆国から日本へ2名の研究者が派遣され、日本からはアメリカ合衆国に向けて魚類栄養学の専門家である

新井茂博士を含む、その他の研究者の巡遊が申し合された。
また、交流をより効果的にするため、訪問者に関する事前
広報の方策を検討あることが申し合された。

水産増養殖研究に関する情報交換として、日本側部会
からは21冊の印刷物が送附され、このうち幾冊かは
アメリカ側部会にて英訳が検討されていることが報告された。
アメリカ側部会からは日本側部会へ向けて多くの印刷物が送附
されており、これらは日本側部会内で回覧利用されている
ことが報告された。

カキの夏季大量への死防止のための協同研究は日本で養殖
実験を継続中であることが日本側部会より報告された。カキの
病気に関する協同研究は過去4年間のわたる結果について近々
印刷予定であることがアメリカ側部会より報告された。

ICESが行なっている海産魚病の国際的索引に対し、
日本側部会の協力がアメリカ側部会より要請された。

本部会の協同研究計画を両国間で公式化する試み
として、アワビの種苗放流と放流効果に関する協同研究
の素案がアメリカ側部会より提案された。この提案の

関し日本側部会は実際的な見地から可能性について検討し、後日返答することとした。

アメリカ側部会では活動内容の充実を目的とし、幾つかの部内委員会を設け、その中の一つとして編集委員会が、1977年の本合会議に提出された報告の印刷準備をしていることと今後の編集方針を準備していることが報告された。

本部会合会議特別シンポジウムに提出された報告の印刷に関し以下の点で日米両部会は合意した。報告はその都度一定の刊行物に開催国側の責任で印刷する。投稿規定は各合会議開催以前に各発表者に通知する。

最後に次回合会議について討議が行われた。主題は「甲殻類の増養殖」であり、1980年5月京都で開催予定のインド太平洋漁業理事会に引き続き開催し、現地検討会はこれに続き、エビの養殖について行なうことが申し合わされた。

以上

佐藤重勝
日本側部長 佐藤重勝

William V. Shaw
アメリカ側部長 ウィリアム N. ショウ